

令和4年度教員採用選考試験の合格を目指して
教職支援センター活動報告①
 一面接指導（小中、養護、栄養教諭）を中心として—

椋本久雄
 (教職支援センター特任教授)

はじめに

令和2年はじめ、国内でのコロナ感染者が発見されて以来、早2年の月日が過ぎようとしている。日本国内でも第一波から第五波の感染者数の推移が見られる中、ワクチン接種やコロナ感染対策の取組が功を奏してきているようにも見えたが、令和4年に入りオミクロン株が猛威を振るいこれまでにない感染者数の第六波を迎えている。

本活動報告では、令和3年度4回生たちが、令和4年度教員採用選考試験の合格を目指して取り組んできた内容を中心に述べていくことにする。教職支援センターでは、特任教授である我々の後期の授業が終了する令和3年2月より個人面接や集団面接、集団討論、模擬授業等の各指導を実施した。令和2年度のコロナ感染対策の取組を踏まえたオンライン授業やオンデマンド授業が実施されている状況下での対面指導は困難であり、Zoomによるオンライン指導から始めた。

また、昨年度の反省から、指導時間帯と指導時間について変更して取り組むことにした。指導時間については、短時間で濃密な指導に徹しようということで、これまでの1時間の指導時間から40分間の指導時間とし、指導時間帯を学生の大学での授業時間帯に対応させるようにして実施した（90分間の授業時間の中に40分間の指導枠を2枠設定する）。この結果、1日7枠の指導時間を設定することができた。ただし、指導する我々にとって、すべての指導枠を埋めることは、学生たちの熱い思いに応えるためとは言えハードワークとなってしまった。

1. 相談利用状況について

令和3年2月から10月までの私が担当した学生の主に個人面接、集団面接、集団討論、模擬授業等の相談利用総数（週5日勤務）は、のべ617名で、昨年の数値を大幅に上回るようになった（参考：昨年4月～12月、延べ375人）。

以下に相談利用数の詳細を示す。

1) 月別相談利用数から

令和4年度教員採用選考試験対策として、「いつごろから取り組めばよいのか」と学生に尋ねられたときには、「3回生の後期あたりかな」と助言することがある。3回生の後期開始時期あたりから計画的にじっくりと取り組むことができれば、内容的なことについては別として時間的には適当であろう。また教職カウンセラーや東京アカデミーが実施する各種指導を受けていくことも自信につながっていく。

教職支援センターでは、後期の授業が終わる2月から「学生指導」として、特任教授による個人面接や集団討論などの指導を実施した。コロナ感染者数の増加の第三波を迎える中、Zoomによる遠隔指導で教員を目指す学生と関わるようになった。

図1のように実数20名程度から始まった学生指導は、新学年を迎える4月から一気に増加し、多くの自治

表1 月別相談利用者数（実数とのべ数）

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	合計
実数（人）	20	21	41	50	42	41	38	5	3	261
のべ数（人）	27	62	111	117	98	104	87	8	3	617

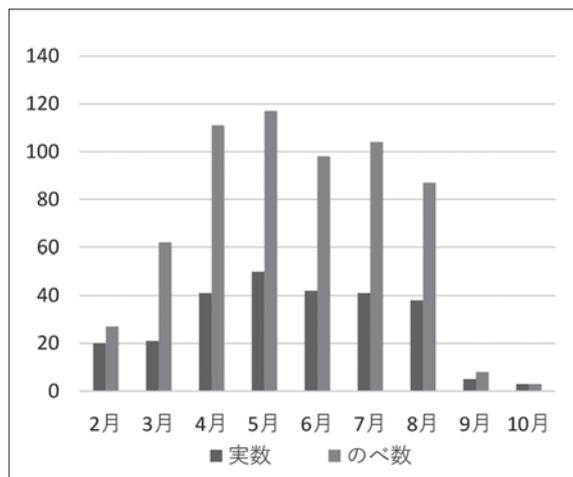


図1 月別相談利用数

体で採用試験の一次試験が実施される7月中旬までがピークとなった。個人指導については1週間に一度、集団指導についてはこの限りではないので、個人指導を予約した週に、友人たちと集団討論を予約し、週に複数回顔を合わす学生も多かった（そのため4月から8月にかけての延べ人数は図1のように実数の倍以上の状況となった）。コロナの感染状況は、Zoomによるオンライン指導か対面指導かの指導の在り方を常に考慮しなければならない必要性に迫られた。

第三波が終息傾向に入中、4月初旬は、対面指導で学生たちに直接指導をすることができた。入退室の仕方から、お辞儀の仕方等、Zoom指導ではなかなか指導しきれない、対面指導ならではの指導が可能であった。しかし、第4波の襲来とともに、

Zoomによる指導が再開された。対面指導とZoomによる指導の併用した指導の中、多くの自治体が8月中旬に二次試験を実施した。二次試験対策として、集団討論の指導や京都市の教員採用選考試験に代表される模擬授業対策の指導が中心であった。受験生たちにとっては、与えられた8～10分程度の模擬授業に対して、1時間分の学習指導案を作成し、授業展開の練習をどれほどまで積み上げているのか、大きな負担となったことであろう。個人の模擬授業指導も行ったが、集団での模擬授業指導では、学生たち自身も互いに授業評価を行って練習の積み上げを行っていた。

2) 所属別相談利用数から

表2のように、学科別専攻別利用者を見てみると、小学校教員を目指している教育学専攻の学生が群を抜いて多いことがわかる。次いで養護教諭を目指している生活福祉学科の学生が続いている。中学校・高等学校教員免許取得を目指している文学部の史学科の学生や現代社会学科の学生の教職支援センターの利用を促していくことが今後の課題である。

図2の所属別相談利用数（のべ数）を見てみると教育学専攻の学生の利用が4月から8月に集中している

表2 所属相談利用数

	国文学科	英文学科	史学科	教育学専攻	音楽教育学専攻	食物栄養学科	生活福祉学科*	現代社会学科	過年度生	合計
実数（人）	8	4	3	28	10	4	20	2	3	82
のべ数（人）	72	49	4	263	38	10	162	8	11	617

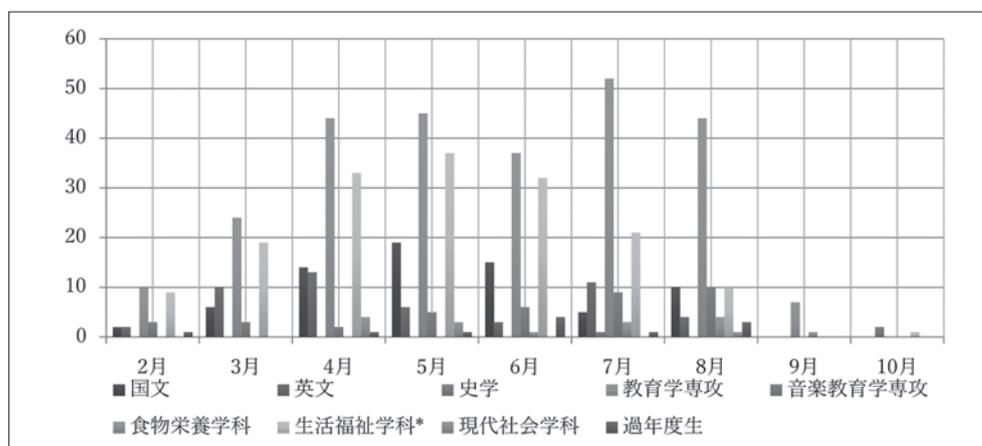


図2 所属別相談利用数（のべ数）

教職支援センター活動報告①

ことがわかる。4月、5月の指導では、主に個人面接指導が中心であった。また、7月、8月の指導では、集団面接、集団討論や模擬授業の指導が多かったことが記憶に残っている。教育学専攻の学生たちは、受験自治体を同じくする学生が横の連携を密にし、互いに切磋琢磨して選考試験に臨もうとしていることが窺えた。夏休みを利用して、個人面接や集団面接、集団討論の指導が終わった後でも、空き教室に集合して遅くまで受験対策練習をしていることに驚かされた。

2. Zoomによるオンラインの指導と対面指導について

コロナ感染拡大を防止するために、大学での学びは、本来の対面授業に加えてオンラインやオンデマンドによる遠隔授業が実施されている。教職支援センターの学生指導についても同様に、全国的な感染状況の増減や緊急事態宣言の動向に影響されることになった。私が取り組んだ令和4年度教員採用選考試験に向けての学生指導（令和3年2月～10月）では、「Zoomによるオンライン指導」と「対面指導」との比は、概ね「6」:「4」の割合でZoomによる指導が多い状況となった。試験本番が近づくにつれ、学生の微妙な心理状況に対応していくには、やはり対面での指導が必要と感じることが多くあった。

ここに2つの指導方法について気づいた点をまとめてみた。

1) 「Zoomによるオンライン指導」について

- コロナ感染の状況に関係なく指導ができる
- マスクを外した状態で指導できるため、顔の表情が良くわかる
- 学生は、パソコンデスクの前なので指導した内容のメモを取りやすい
- 自分の家で気軽に指導を受けられる（準備が簡単）

2) 「対面授業」について

- 服装、身だしなみについての指導が直接できる
- 入退室の仕方や礼の仕方など、実際にやってみることで指導がしやすい
- 面接時の視線のやり場など細かな指導ができる
- 学生の話し方や態度の指導後のフォローが速やかにできる

コロナ感染状況に影響される今日の状況にあって、今後も遠隔指導と対面指導の2つの指導を併用しなければならないかもしれないが、やはり実際に本人を見ることで、画面では伝わらない学生の雰囲気やちょっとしたところではあるが実感として捉えられる。それ故人物重視の教員採用選考試験に如何に受験生の人となりや前面に出せるかが鍵となる。

3. 教職応援セミナーの開催

教職を目指す学生たちは、1回生から教職課程の科目を選択履修し、4年間の学びを積み重ねて各自が希望する校種の教員免許状を取得する。その間、教育実習をはじめ、介護等体験事業、学生ボランティア等々の学外での多くの学びを習得する必要がある。教員を目指している学生たちに少しでも応援できることはないか、教員採用選考試験までの計画的な学修を進めることできるよう教職支援センターが主体となって、教職応援セミナーを開催することにした。（次ページ参照）

この応援セミナーは、主に2回生から3回生にかけての時期に、改訂された「教職課程ハンドブック」を持参し、右に示したように1回から7回までの講座を開設し、教育現場での学びを経験するための心構えや採用試験に臨むために必要な自己分析や志望動機、自身が目指す教師像など、各自治体を実施する教員採用選考試験や私立学校の選考試験に対応した基本的な学びを提供し、教職への理解を深める機会としている。各回とも昼食時の限られた時間ではあるが2度実施し、そのあとに各回の詳細についてフォローアップ指導を各回ともに2度にわたって実施し、希望する学生に対応している。この取組については、教職カウンセラーが中心となって取り組んでいる。

4. 今後の課題

私は、週5日勤務であり授業が後期に集中しているため、前期は教職支援センターの業務のほかに、学科専攻の先生方から教育実習の巡回指導を依頼されたり、各自治体の教員採用選考試験説明会の対応などを行った。コロナ感染拡大に対する対応が不十分であった令和2年度では、すべて行事が中止となってしまっていたが、本年度については、各自治体の意向にもよるが、説明会については対面での実施となったり、Zoomによるオンライン説明会やYouTubeによる説明会という形で実施することができた。また、巡回指

【講座内容】

回	対 象	講 座 名	講 座 内 容
1	2回生 7月期	教育現場で学ぶ ～学生ボランティア・教育実習～	ボランティア・教育実習に臨むにあたって ○心得や観察の視点を理解する
2	2回生 10月期	教育現場で学んだこと・課題	教職課程ハンドブックに振り返りを記入 ○振り返りから学んだことや課題を共有し、新たな視点に気づく
3	3回生 春	2回生までの振り返りと今後の課題	ハンドブック ○振り返り・リフレクションシートの活用
4	3回生 10月期	自己分析・自己PRを考える	教育現場での学びから ○自分を知ろう（長所・短所 得意・不得意） ○自分の良さを伝えるために
5	3回生 11月期	あなたが目指す教師像 ～志望理由～	あなたが、子どもたちが、保護者が、考える ○理想とする教師とは ○信頼される教師とは
6	3回生 12月期	教員採用試験に向けて ～基本的なマナーを知る～	○身だしなみ、言葉遣い、立ち居振る舞いなど
7	3回生 1月期	面接 ～思いを伝える～	個人面接・集団討論など ○各々のねらいを理解した思いの伝え方

導では児童学科の6名の学生を担当した。小学校での教育実習の事前事後指導と研究授業を参観する学校訪問を行い、目を輝かせた児童たちからエネルギーをもらうことができた。学校現場の元気な児童たちと熱心に授業している教育実習生の姿に、教職課程に関わる教員の1人として現場を知ることの大切さを実感した。

昨年度の反省に立ち、学生指導の指導時間を40分間にしたことで、指導時間帯を7枠設定することができた。より多くの学生との対応が可能となったが、1日に担当する枠数を考慮することが必要と考える。学生の要望に応えようとすると最大の枠数に予約を取ってしまい、過重となってしまう。また、4月～7月期は前期授業と学生指導が重なってしまうことから、指導室の確保が必要不可欠となる。中でも特任教授3名が揃う曜日は、教職カウンセラー3名を含めると、どうしても指導教室の確保が必要となる。

今年度から実施している「教職応援セミナー」を軌道に乗せることで、教職課程を履修している学生たちが、教員を目指す上での不安を払拭し、意欲的にまた計画的に着実に取り組めるよう支援していくことが課題と考える。